

第2期  
北見市総合計画

基本構想

平成31年度～平成40年度  
(2019年度～2028年度)

北見市



# 目次

## I. 序論

第1章 計画の策定にあたって.....	1
1. 計画策定の趣旨 .....	1
2. 計画の役割 .....	1
3. 計画の構成と期間 .....	1
第2章 計画策定の視点 .....	2
1. 次代に対応した計画づくり .....	2
2. 実効性ある計画づくり .....	2
3. 市民参画による計画づくり .....	2
4. 地域特性を活かした計画づくり .....	2

## II. 基本構想

第1章 北見市の将来像.....	3
第2章 まちづくりの基本目標（施策の大綱） .....	4
1. 健康で安心して暮らせるまちづくり .....	5
2. 豊かな心と文化を育むまちづくり .....	6
3. にぎわいと活力あふれるまちづくり .....	7
4. 自然と調和する安全な住みよいまちづくり .....	8
5. 市民による自主自立のまちづくり .....	9
第3章 持続可能なまちづくりの展開方針.....	10
1. 多核連携型のコンパクトなまちづくり .....	10
2. 市民主体の協働のまちづくり .....	11
第4章 自治区のめざす方向性.....	12
1. 北見自治区 .....	12
2. 端野自治区 .....	12
3. 常呂自治区 .....	13
4. 留辺蘂自治区 .....	13



# I . 序 論



## 第1章 計画の策定にあたって

### 1. 計画策定の趣旨

北見市は平成18年(2006年)の合併後、新市まちづくり計画をまちづくりのマスタープランとし、その後、平成21年(2009年)3月に北見市総合計画(現行計画)を策定しました。北見市総合計画では、北見市の将来像として掲げた「ひと・まち・自然きらめく オホーツク中核都市 -安心な活力都市 北見-」の実現に向けて、各種計画や施策・事業を展開し、オホーツク圏域の中核都市としての「まちづくり」を進めてきました。

総合計画策定から10年が経過し、人口減少・少子高齢化の進行など、北見市を取り巻く社会経済情勢は大きく変化しています。

そうしたなか、まちづくりの長期的な展望に立った将来像を描き、総合的かつ計画的な市政運営を図るため、「北見市まちづくり基本条例」に基づき、新たな総合計画を策定します。

新たに策定する第2期北見市総合計画は、社会経済情勢の変化を的確に捉え、将来においても持続可能なオホーツク圏域の中核都市をめざす北見市のまちづくりの指針として策定します。

### 2. 計画の役割

この計画は、北見市がめざす今後10年間の将来像を示し、その実現に向けたまちづくりの基本目標などを総合的かつ体系的にまとめ、長期展望に立った「まちづくり」の最上位に位置づけられる計画です。

### 3. 計画の構成と期間

この計画は、「基本構想」と「基本計画」で構成しています。

計画期間は平成31年度から平成40年度(2019年度から2028年度)までの10年間とします。

なお、長期的な計画のため、今後、予想を超える社会経済情勢の変化があった場合は、本計画を弾力的に改訂します。

#### ①基本構想

基本構想の期間は10年間とします。北見市のめざすべき将来像を示し、その実現に向けたまちづくりの基本目標(施策の大綱)などを明らかにし、基本計画の方向付けを行うものです。

#### ②基本計画

基本計画の期間は、急速に変化する社会経済情勢に柔軟に対応していくため、前期基本計画5年間、後期基本計画5年間とします。

基本計画は、基本構想を実現するため、分野別の主要施策や目標とする指標などを明らかにするものです。

## 第2章 計画策定の視点

次の4つの基本的視点を持って、この計画を策定しました。

### 1. 次代に対応した計画づくり

急速な人口減少や少子高齢社会に対応するとともに、多様化する地域課題や市民ニーズを的確に捉え、次代につなぐ持続可能なまちづくりに向けた計画とします。

### 2. 実効性ある計画づくり

厳しい財政状況を考慮し、効率的で効果的な市政運営及び事業展開につながるよう、行政評価でのPDCAサイクル<sup>\*</sup>による進行管理やKPI<sup>\*</sup>などの評価指標を設定し実効性のある計画とします。

### 3. 市民参画による計画づくり

市民の参画機会の充実を図り、世代や性別を問わず幅広い市民の意見把握に努め、より身近で市民主体のまちづくりにつながる計画とします。

### 4. 地域特性を活かした計画づくり

広大な面積と多彩な地域資源を有する地域特性を活かした魅力あるまちづくりを進める計画とします。

---

<sup>\*</sup>PDCA サイクル…限りある行財政資源（予算・人員・情報・技術など）をより有効かつ適切に配分していくために、目標を定め事務事業について有効性、効率性、影響力等を総合的な観点から評価し、見直し改善を図る事務事業管理の手法。（Plan（計画・予算）－Do（事業実施）－Check（評価）－Action（改善・改革））

<sup>\*</sup>KPI…重要実績評価指標（Key Performance Indicators） 目標達成の状況を判断するための関連性のある数値指標



## Ⅱ. 基本構想



## 第1章 北見市の将来像

北見市は、豊かな自然に囲まれたオホーツクの風土と歴史のなかで、いつの時代も市民が主体のまちづくりを展開し、発展を続けてきました。今日の北見市を取り巻く社会経済情勢の大きなうねりのなかで、これからのまちづくりの長期的な展望に立ち、北見市が有する歴史と多彩な地域資源を活かし、郷土に対する愛着と誇りを胸に“新たな”時代を切り拓いていきます。

「北の大地に光を求め、荒野を切り拓いた先人の開拓精神を受け継ぎ、  
市民一人ひとりがきらめき、自然と共生し、活力と創造のあるまちをめざします。」

基本構想における北見市の将来像を、

**ひと・まち・自然きらめく オホーツク中核都市**  
**— 未来を拓く活力創造都市 北見 —**

とします。

### ●ひとがきらめく

人と人が支えあい、誰もがいきいきと心豊かに暮らし、一人ひとりの知恵と力を結集した市民が主体の「ひとがきらめく」まちをめざします。

### ●まちがきらめく

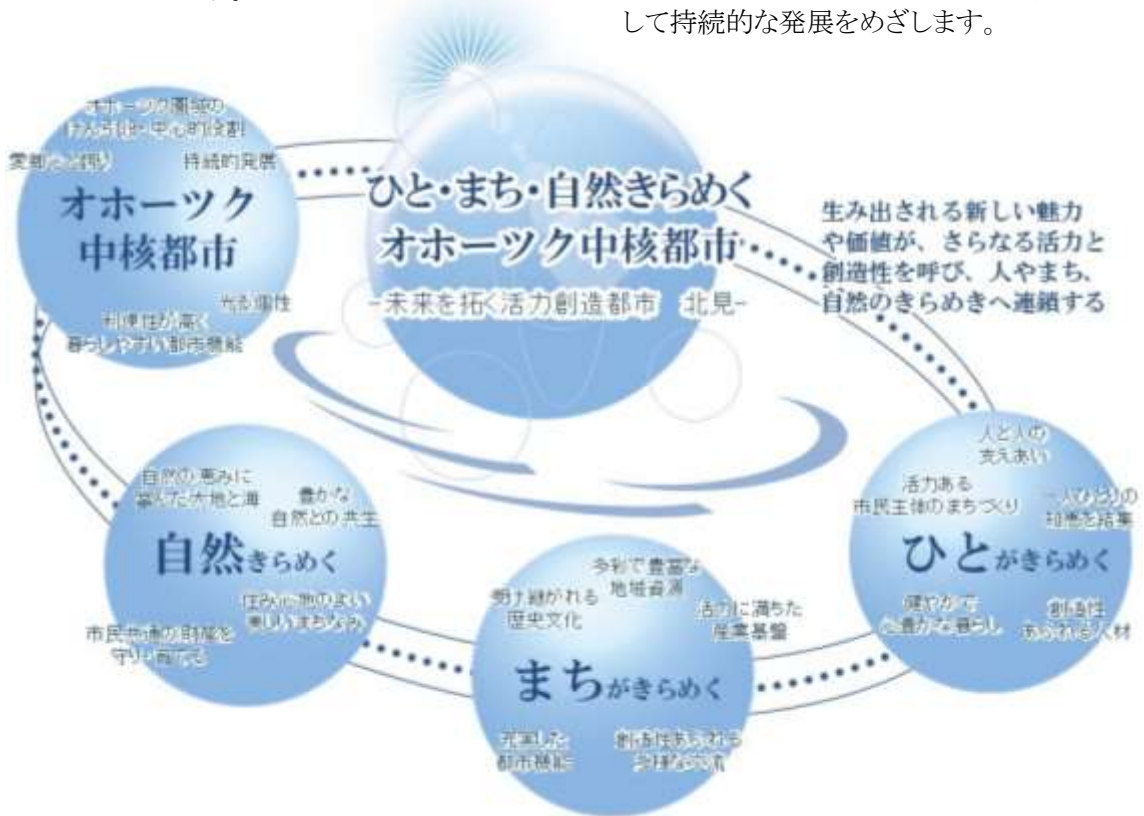
多彩な地域資源を活かしながら、豊かな産業基盤や都市機能が充実し、活力と創造性にあふれた「まちがきらめく」都市をめざします。

### ●自然がきらめく

豊かな自然に恵まれた大地と海を大切に守り育て、自然と共生しながら、美しいまちが形成される「自然きらめく」まちをめざします。

### ●オホーツク中核都市

オホーツク圏域の経済、教育、文化などあらゆる分野での中心的役割を果たし、利便性が高く暮らしやすい都市機能を備え、圏域の中核をなす「オホーツクの中核都市」として持続的な発展をめざします。



## 第2章 まちづくりの基本目標（施策の大綱）

北見市がめざす将来像を実現するため、次の5つの「まちづくりの基本目標」を掲げ、分野別の施策の推進を図ります。

(将来像)	(まちづくりの基本目標(施策の大綱))	(分野別施策)
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ひと・まち・自然きらめく オホーツク中核都市 — 未来を拓く活力創造都市北見 —</p>	<p>1 健康で安心して暮らせるまちづくり 【健康・福祉】</p>	<p>①希望あふれる 子育て支援の充実 ②健康に暮らせる 保健・医療の充実 ③支えあう福祉の推進</p>
	<p>2 豊かな心と文化を育むまちづくり 【教育・文化】</p>	<p>①豊かな心を育む 教育の推進 ②ともに学びあう 生涯学習の推進 ③地域文化を育む 文化活動の推進</p>
	<p>3 にぎわいと活力あふれるまちづくり 【産業・観光】</p>	<p>①魅力と活力ある 産業振興 ②にぎわいと交流の 観光振興 ③創造性あふれる 雇用環境の充実</p>
	<p>4 自然と調和する安全な住みよいまちづくり 【環境・生活基盤】</p>	<p>①豊かな 自然環境の保全 ②快適な 生活空間の充実 ③地域の安全安心の 確保</p>
	<p>5 市民による自主自立のまちづくり 【地域・自治】</p>	<p>①市民主体の 住民自治の推進 ②互いに尊重する 地域社会の形成 ③効率的な 地域経営の推進</p>

## 1. 健康で安心して暮らせるまちづくり（健康・福祉）

### ○分野別施策

#### ①希望あふれる子育て支援の充実

安心して子どもを産み育てることができ、子育てや子どもの成長に希望や喜びを感じ、次代のまちづくりの担い手となる子どもたちが、心豊かで健やかに成長できるまちをめざします。

多様なライフスタイルに応じた子育て支援体制の充実や地域全体で総合的に子どもたちを見守り、健全な成長を支援する環境づくり、子育てに関する相談体制や情報提供の充実を図るなど、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを推進します。

#### ②健康に暮らせる保健・医療の充実

市民がいつまでも安心して健やかに暮らしていくことができるまちをめざします。

ライフステージに応じた健康づくりの支援体制を整え、市民が自ら「自分の健康は自分で守る」という意識を高め、市民が主体となった健康増進活動などを促進します。また、子どもから高齢者まで健康教育を推進し、市民全体で健康寿命の延伸や介護予防、健康増進に取り組む環境づくりを進めます。

オホーツク第三次医療圏の地方センター病院として、高度医療の役割を果たしている北見赤十字病院を中心とした各医療機関などの幅広い連携により、安心して質の高い医療体制の充実を図り、生涯にわたり健やかに暮らせる環境づくりを推進します。

#### ③支えあう福祉の推進

誰もがいきいきと心豊かに暮らしていくことができるよう、地域のなかで支えあいのあるまちをめざします。

市民や団体、事業者などが連携し、地域での見守りなどや社会参加を通し、地域住民同士が互いに支えあう身近な地域福祉活動が推進される環境づくりを進めます。

高齢者や障がいのある人が安心していきいきと暮らせる活躍の場や機会の提供を図り、年代や障がいの有無にかかわらず、すべての人が暮らしやすく、住みよい地域社会の実現にむけたまちづくりを進めます。

## 2. 豊かな心と文化を育むまちづくり（教育・文化）

### ○分野別施策

#### ①豊かな心を育む教育の推進

未来を担う子どもたちの「生きる力」を育み、一人ひとりの個性を大切に「確かな学力」の向上と「豊かな心」を育む教育環境づくりをめざします。

家庭や学校、地域社会と連携し、信頼ある地域の教育拠点としての学校づくりを進めるとともに、子どもたちが創造性豊かに、安全で安心して学べる教育環境づくりを促進します。

高校、大学教育においては、より高度な教育機関としての機能を高められるよう、多様な価値観に対応する地域文化や職業体験などの提供を通して創造的な人材育成を支援します。

特に北見工業大学や日本赤十字北海道看護大学での新技術の研究開発や高度な教育機能を活かし、地域の産業や医療福祉を支える人づくりの支援を推進します。

#### ②ともに学びあう生涯学習の推進

市民一人ひとりが生涯を通じて、心豊かに生きがいを持ち、自由にいつでも学び続けることができるまちをめざします。

市民のライフステージに応じた学習機会の提供や多様化する学習ニーズに対応した学習機能の充実を図り、生涯学習を推進します。

子どもたちの社会体験や学習機会の充実による地域社会での成長を通して、ふるさとへの愛着と誇りを育み、愛郷心に満ちた次代のまちづくりの担い手の育成を図ります。

生涯スポーツにおいては、子どもから高齢者までが気軽にスポーツに親しむことができる環境を整え、スポーツ活動の推進と交流を促進するとともに、指導者の育成などの充実を図ります。また、スポーツ合宿や大会誘致などを推進するとともに、カーリングをはじめとする地域特性を活かした幅広いスポーツの普及や振興を図ります。

#### ③地域文化を育む文化活動の推進

まちの誇りとなる歴史や文化を守り育て、多様な価値観や文化への理解を深め、地域に根ざした芸術・文化活動が広がるまちをめざします。

今後の急速な国際化の進展により、これまで以上に幅広い国際知識を身につけた人づくりを進めるため、学校教育や社会教育、国際交流などの機会を通じ、さまざまな価値観や文化に対する理解や寛容性を育む環境づくりを進めます。

また、地域に根ざした芸術・文化活動を促進し、質の高い芸術文化の鑑賞や発表の機会の充実を図るとともに、地域で大切に育まれてきた伝統文化の保存継承と活用を進めます。

先人から引き継いだ歴史ある地域の文化財を守り、活かし、次代へ引き継いでいくため、文化財の保護や保護団体などの活動支援の推進を図ります。

### 3. にぎわいと活力あふれるまちづくり（産業・観光）

#### ○分野別施策

##### ①魅力と活力ある産業振興

本市の強みを活かした地域経済の持続的発展と、多くの人を惹きつける魅力と活力ある産業振興のまちをめざします。

豊かな地域資源を活かしながら、基幹産業として魅力ある農林水産業の振興を図り、地場産品の高付加価値化を推進するとともに、先進技術の活用や研究開発などにより効率的で効果的な生産性の向上や競争力の高い強固な産業基盤の構築を推進します。

オホーツク圏域の中核都市として、多様化するニーズに対応した商工業の振興、新産業の誘致や起業促進のほか、産学官連携などにより、地域経済の振興を図ります。また、求心力の高い中心市街地の形成に向けて、空き地や空き店舗などを活用した多様な働き方や新たな価値を生み出す環境づくりを推進し、魅力と活力ある産業振興を図ります。

##### ②にぎわいと交流の観光振興

まちの魅力向上や機能強化を図り、人が集い、賑わいと多様な交流を創出する観光振興のまちをめざします。

多彩な地域資源を最大限に活かし、国内外から多くの人を呼び込み、さまざまな消費活動の誘発や多様な交流を促進させ、地域経済の活性化に寄与する観光振興を図ります。

そのため、豊かな自然環境、美しい景観、歴史文化や食文化、スポーツといったあらゆる観光資源を活かし、体験交流なども織り交ぜた周遊性の高い着地型観光\*を推進します。

今後増加が見込まれる海外からの訪日外国人旅行者に対応した多言語対応の公共サインや情報端末使用環境の整備など、観光客の受入体制づくりを促進します。

魅力ある観光資源を多様な情報発信媒体を活用し、国内外に向けた観光プロモーションの充実を図ります。

##### ③創造性あふれる雇用環境の充実

市民一人ひとりが、個性と能力を発揮し、いきいきと働くことができるまちをめざします。

次代を担う若者や元気な高齢者などの雇用の創出を図るとともに、産学官連携によるイノベーションの創出など創造的活動を促す交流拠点の充実や環境づくりを促進します。

地域特性やICT（情報通信技術）などを活用し、企業などに対するサテライトオフィス\*機能の提供支援のほか、さまざまなライフスタイルに対応したテレワークの推進、場所や時間にとらわれない新たな働き方や就業体制の促進に努めます。加えて、子育てや介護をしながらでも就業が可能となるワーク・ライフ・バランス\*が整えられた多様で柔軟な働き方を促進します。

\*着地型観光…旅行者を受け入れる側の地域（着地）が、その地域でおすすめの観光資源を基にした旅行商品や体験プログラムを企画・運営する形態のこと。

\*サテライトオフィス…企業または団体の本拠から離れた所に設置されたオフィスのこと。

\*ワーク・ライフ・バランス…仕事と生活の調和のこと。

## 4. 自然と調和する安全な住みよいまちづくり（環境・生活基盤）

### ○分野別施策

#### ①豊かな自然環境の保全

豊かな自然を守り、自然と共生するため、再生可能エネルギーの利用や省エネルギーを促進し、環境負荷の少ない持続可能な低炭素社会の形成をめざします。

循環型の地域社会を促進するため、ごみの減量化や分別の徹底、省電力家電の使用など市民の身近な暮らしにおける工夫や意識啓発を促進し、限られた資源を有効に使い、地球にやさしい環境づくりを推進します。

常呂川やサロマ湖をはじめ、河川や湖、森林など豊かな自然環境を守り育てることで、生物多様性の保全を促進します。次代にオホーツクの美しい景観や自然環境の特性を享受した豊かな暮らしを引き継いでいくため、自然体験活動や環境教育を推進します。

#### ②快適な生活空間の充実

オホーツク圏域の中核都市として、さらに持続的に発展していくため、豊かな暮らしを支える住環境などが充実した快適な生活空間のあるまちをめざします。

本市の地域特性を活かした拠点性のあるコンパクトで利便性の高いまちづくりを推進し、各地域の拠点を中心に、公共施設や医療・福祉などの生活サービス機能の集積が図られ、歩いて暮らすことができる居住環境の形成に努めます。あわせて、拠点をつなぐ道路網や交通ネットワークが充実したコンパクトなまちの形成により、効率的で住みよい生活空間の充実を図ります。

#### ③地域の安全安心の確保

近年の国内外における地震や風水害などの大規模な自然災害により、安全安心に対する意識が高まるなか、身近な防災対策をはじめ、誰もが安心して暮らすことができる防災意識の向上や防災体制の強化、消防救急体制の充実など、防災や減災に対する強化を図り、安全で安心して暮らせるまちづくりをめざします。

また、防犯意識の向上や交通安全に対する意識啓発の推進を図るとともに、悪質な犯罪被害から未成年者や高齢者などを守るため、消費生活などの意識啓発や相談体制の充実を図り、地域において誰もが安全で安心して暮らせる環境づくりを推進します。



## 5. 市民による自主自立のまちづくり（地域・自治）

### ○分野別施策

#### ①市民主体の住民自治の推進

市民が自主的にまちづくりに関わり、市民一人ひとりの力が発揮される豊かで暮らしやすいまちをめざします。

市民による地域環境の美化活動や高齢者の見守り、地域コミュニティ活動の充実など市民主体のまちづくりを推進します。

また、市民や団体、企業、行政が公共的な課題を共有し、互いに役割を分担しながら連携協力し、ともに支えあい住みよい地域社会を築くため住民自治を推進します。

加えて、市民の市政への参画を促進するため、さまざまな場面で市民がまちづくりに参加できる機会や市民の声が反映される取組などの充実を図ります。

#### ②互いに尊重する地域社会の形成

一人ひとりの個性が尊重され、認めあい支えあう思いやりのある地域社会が形成されたまちをめざします。

誰もが安心して心豊かに暮らすためには、市民一人ひとりが互いの人権を尊重し、性別にかかわらず、多様な生き方を認めあい、それぞれの能力が発揮できる環境づくりを推進し、すべての市民が平等に参画できる地域社会の形成に向けたまちづくりを推進します。

#### ③効率的な地域経営の推進

計画的な行政運営や健全な財政運営により、時代に対応した自主自立のまちづくりをめざします。

今後も進行する人口減少や少子高齢化などの社会的背景を踏まえ、限られた財源のなかで、多様化する地域課題に対する確に対応し、市民が豊かに暮らしていくことができるよう、コンパクトなまちづくりを進めるなど、効率的かつ効果的な質の高い行政サービスの提供を図ります。

あわせて、機能的な組織体制づくりや行政のスリム化を推進し、行政評価や行財政改革による効率的で安定的な財政運営を図るとともに、近隣自治体などと連携した広域連携のまちづくりを推進します。

### 第3章 持続可能なまちづくりの展開方針

将来像の実現に向けたまちづくりの基本目標に沿って、人口減少・少子高齢化時代に対応した持続可能なまちづくりを進めていくには、各分野における施策を横断した取組が必要です。

今後のまちづくりの基本姿勢として、「持続可能なまちづくりの展開方針」を、次のとおり設定します。

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 多核連携型のコンパクトなまちづくり</li><li>2. 市民主体の協働のまちづくり</li></ol> |
|---|

#### 1. 多核連携型のコンパクトなまちづくり

急速な人口減少により、空き家や空き店舗が増加し、人口密度が低下することにより、地域商店などの撤退や地域コミュニティの維持困難など地域課題がさらに顕在化することが予想されます。また、高齢化により、交通弱者が増加し、徒歩生活圏での利便性の向上が重要となります。

そこで、人口減少・少子高齢化時代における豊かな暮らしの実現には、本市の地域特性や都市構造、人口規模に応じたコンパクトで利便性が高い持続可能なまちづくりが求められます。

本市は広大な市域のなかに4つの自治区があるほか、自治区のなかにも地域特性を活かした複数の地域拠点があります。例えば、都市機能が集積した「都市拠点」、地域コミュニティや生活基盤がある「地域生活拠点」、大学の立地を活かした「研究教育拠点」などです。加えて観光客の受入れや観光情報の発信を行う「観光交流機能」、異業種交流や新産業創出を促す「創造交流機能」などを配置することで、新たな価値を生む豊かな暮らしが促進されます。

これに伴い、市民や来訪者が魅力を感じる機能などを地域拠点の周辺に集積させることで、一帯の賑わいの創出を図るとともに、空き家・空き店舗を有効活用し、若者や子育て世代、創造的な思考や技術を有する人々の居住誘導や集住化を促し、移住・定住の促進を図ります。

このように、各市街地（核）や機能（核）がコンパクトにまとまり拠点を形成するとともに、交通ネットワークなどにより有機的につながることで、効率的で利便性が高い持続可能なまちづくりを進めることができます。

そのため、各分野・施策を横断した「多核連携型のコンパクトなまちづくり」を推進します。

## 2. 市民主体の協働のまちづくり

人口減少・少子高齢化のほか、本市を取り巻く社会経済情勢は今後も刻々と変化していくことが予想されることや地方分権の進展に伴い、地域自らの考えと判断のもと地域特性を活かした特色あるまちづくりを進めていくことが求められています。しかし、人口減少による経済規模の縮小や税収の減少によって、今後ますます厳しい行財政運営が予測されます。

そのため、より一層行政のスリム化や事務事業の効率化を進めるとともに、市民と行政が対等の立場で相互理解と連携に基づき、地域の公共的な課題の解決に取り組む必要があります。

自分たちのまちは自分たちの力でつくっていくという気概のもと、市民一人ひとりの力が発揮され、市民が主体的にまちづくりを進める住民自治を展開し、市民と行政が共に協力して取り組む「協働」をさらに推進していくことが求められます。

今後の多様化・複雑化する地域課題の解決に向け、市民と行政が連携し、さらなる協働を進めることで、自立した住民自治を促進し、人と人のつながりや心豊かな暮らしを創造するまちづくりを進めることができます。

そのため、各分野・施策を横断した「市民主体の協働のまちづくり」を推進します。

## 第4章 自治区のめざす方向性

北見市の将来像に向かって、自治区の特性を活かしたまちづくりを進めていくために、各自治区がめざす方向性を示します。

### 1. 北見自治区

#### オホーツクの中核都市としての魅力と機能があるまち

北見自治区には、本市の都市機能が集積しており、経済・教育・医療などさまざまな分野において、オホーツク圏域の中心的役割を担っています。また、北見工業大学や日本赤十字北海道看護大学を中心とした高等教育機関や企業、行政が連携し産学官連携などによる創造的な研究教育拠点として魅力ある機能を有しています。

今後においてもオホーツク圏域のさまざまな分野において中心的役割を担い、中核都市にふさわしい魅力と機能を有する豊かな都市づくりをめざします。

#### ■北見自治区のめざす方向性

- 1.中核都市機能の充実と創造的交流拠点の推進
- 2.豊かな産業の振興と多彩な雇用環境の創出
- 3.誰もがいきいきと暮らせる魅力あるまちづくり

### 2. 端野自治区

#### 田園風景に暮らしが調和したまち

端野自治区は、美しい田園風景を背景にしながら、屯田の杜公園を中心に子育て支援施設や小中学校、社会教育施設などが集積し、快適な居住空間と田園風景が調和したまちづくりが進められております。

今後においても、肥沃な大地に活力ある農業を基盤としながら、屯田の杜公園を中心とした子育て環境や教育環境を活かし、暮らしやすい住環境の維持向上を促進し、田園風景と暮らしが共生する地域コミュニティづくりを進め、豊かな暮らしがあるまちづくりをめざします。

#### ■端野自治区のめざす方向性

- 1.活力ある農業振興と美しい田園景観を活用したまちづくり
- 2.立地特性を活かした暮らしやすい住環境の推進
- 3.屯田の杜公園を中心とした子育て・教育環境の向上

### 3. 常呂自治区

#### 海と大地、スポーツによる交流あふれるまち

常呂自治区は、オホーツク海やサロマ湖など豊かな地域資源を活かしたつくり育てる漁業や大規模畑作農業が盛んな地域です。また、日本最大規模のカーリングホールを有し、カーリングの聖地としてオリンピック選手を多く輩出しています。

今後においても、多彩な地域資源を活かしながら、活力ある漁業や農業の振興、カーリングをはじめとするスポーツ振興や観光の推進、史跡常呂遺跡の世界文化遺産登録をめざす取組の推進、住民が共に支えあう地域コミュニティの強化を進めることで豊かな暮らしがあるまちづくりをめざします。

#### ■常呂自治区のめざす方向性

- 1.豊かな地域資源を活かした活力ある漁業と農業の振興
- 2.スポーツの振興と多彩な観光資源による交流人口の拡大
- 3.住民が共に支えあい、安全で安心して暮らせるまちづくり

### 4. 留辺蘂自治区

#### 木・湯・人のぬくもりを感じるまち

留辺蘂自治区は、豊かな森林に囲まれ地場産木材を活用した高次加工の集成材生産など、林産業や農業が盛んな地域です。また、おんねゆ温泉や山の水族館など全国から観光客を惹きつける観光資源があります。

今後においても、地域資源を活かした地場産業の振興や観光、交流などを促進しながら、地域に根付いた支えあう地域コミュニティ活動を推進し、ぬくもりを感じる豊かな暮らしがあるまちづくりをめざします。

#### ■留辺蘂自治区のめざす方向性

- 1.多彩な観光資源を活用した観光の振興
- 2.豊かな資源を活かした活力ある林産業と農業の振興
- 3.地域コミュニティを活かしたぬくもりある安全安心なまちづくり